

B—43 冬期雪国における服地の変褪色に関する研究 (Ⅲ)

北教大札幌分校 ○伊藤 花子
奈良女大家政 山崎 勝弘

1. 本研究は北海道における服地の変褪色を検べることに目的である。とくに1年のうち5か月間を冬期衣服で過ごすことにより、衣服の着用には多くの問題を有するが、色彩については現在まであまり実験されていない。

2. 方法は一定期間屋外に放置して、標準資料と比較検討をするもので、環境を作製して行なうテストとは趣を異にする。今回は研究Ⅲに該当し、Ⅰは奈良女子大家政学研究 Vol 11, 1, 2, 1964 に発表、Ⅱは1966年7月28日、東北北海道支部会（日本家政学会）において発表を行なった。

このたびの方法は札幌市内で最も公害の多い繁華街のビル5階屋上と、同市郊外の住宅地区屋外との両方で同時に曝露実験を試みたものである。服地は16種類で、期間は12日間行ない、測色の結果を標準と照合して比較した。

3. 成果としては煤煙、塵埃、有害ガスなどの被害を受けている中心部では変色による影響を考慮しなければならず、それらの害は比較的少ないが、直射日光、風などによる褪色の害は郊外地が多く受けていることなど判明した。